

UAEの対アフリカ戦略

—要衝港の利権獲得を通じた物流網の強化—



三井物産戦略研究所
国際情報部 欧露・中東・アフリカ室
森口隼、増野伊登（中東三井物産出向中）

Summary

- UAEは、アフリカ各国に対する軍事支援や港湾への投資を通して、紅海・アデン湾をはじめとする重要な海上輸送ルートの安全を確保し、自国の物流網を強化させようとしている。
- さらに、UAEは、アフリカの港湾の管理・運営と近代化を推進することで、アフリカへのゲートウェイとして自国を世界的な貿易ハブに押し上げることを目指す。
- アフリカからUAEへの主な輸出品はダイヤモンドや貴金属であるが、それらを除くと中東の食の嗜好に合致する羊やヤギなどの畜産品およびコーヒー・野菜が多く、UAEの食料需要を支えている。

1. UAEにとってのアフリカとは？

アフリカの有識者からは、アラブ首長国連邦（UAE）による地域への関与増大に関する発言がよく聞かれる。事実、UAEは軍事協力や貿易・投資の拡大、人道支援等を通して、他の湾岸協力会議（GCC）諸国に先んじてアフリカでの存在感を高めている。本論では、その背景を探るため、UAEのアフリカ戦略をひもといていきたい。

1-1. 地政学上の位置付け

UAEは2010年代頃より、アフリカにおける国益を確保・維持すべく、アフリカ域内各国への軍事支援を強化してきたといわれる¹。テロ・海賊対策を目的とした軍事訓練の提供²、武器の供与、軍事拠点の設置³、内戦下のリビア・スーダンへの介入、安全保障協力協定・覚書の締結⁴等がその例だ。

UAEにとって重要なのは、紅海をはじめとする重要な海上ルートの安全確保である。UAEは近年、世界各

¹ Institute for International Political Studies (ISPI) の2024年5月6日付報告書を参照。

<https://www.ispionline.it/en/publication/the-uaes-rising-military-role-in-africa-defending-interests-advancing-influence-172825>

² UAEによる軍事訓練の提供先としては、以下が挙げられる：ソマリア、ソマリランド、プントランド、エチオピア、チャド、モーリタニア、マリ、モロッコ等。

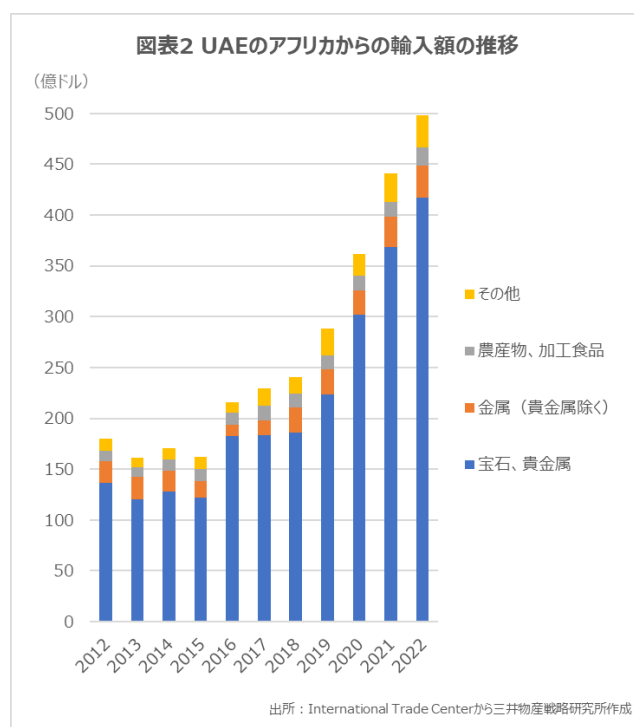
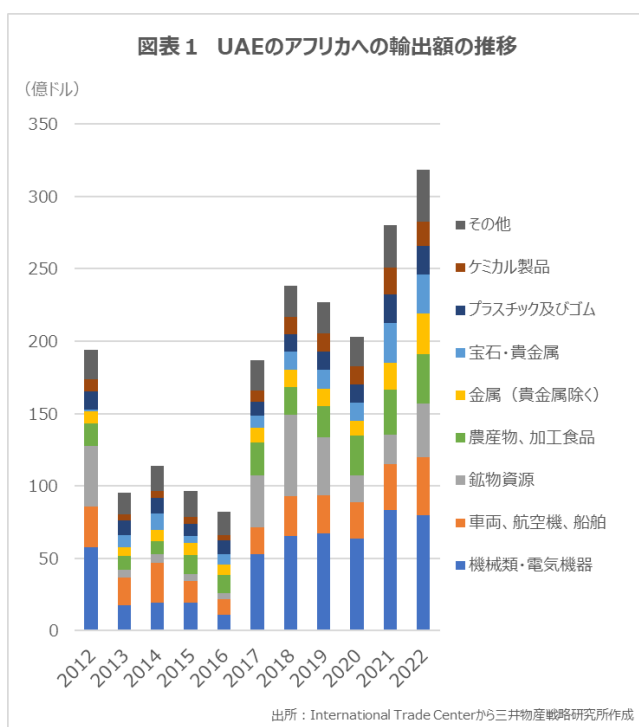
³ UAEによる軍事拠点の設置先としては、以下が挙げられる：リビア、エジプト、ソマリア、ソマリランド、エリトリア、プントランド、チャド等。

⁴ UAEによる安保協力協定・覚書の締結先としては、以下が挙げられる：エジプト、モロッコ、ソマリア、プントランド、エチオピア、チャド、モーリタニア、マリ、セネガル、ケニア、モザンビーク等。

国と相次いで包括的経済連携協定（CEPA）を締結しており、欧州とアジアをつなぐ交易のハブとなることを目指している⁵。そのため、紅海沿岸国であるソマリア、スーダン、エチオピア等の政情を安定化させるとともに、それらの国の港湾開発への巨額投資の見返りとして長期のコンセッション契約を締結することで、港へのアクセスを安定的に確保し、物流網を強化させようとしている。

1-2. UAEとアフリカ諸国との通商関係の高まり

また、UAEにとってアフリカは重要な貿易パートナーでもある。両者間の貿易規模は、2012～2022年の間に370億ドルから800億ドルへと倍増した（図表1、2）。UAEは主に機械類・電気機器、輸送機器、石油をアフリカに輸出し、アフリカからは主にダイヤモンド等の宝石、金等の貴金属や、銅・鉄鋼を輸入している。伝統的に南アフリカがUAEの重要な貿易相手であり続けてきたが、近年ではナイジェリアやタンザニア、COMESA（東南部アフリカ共同市場）諸国⁶も存在感を増している。



特に伸びているのがUAEのアフリカからの輸入で、UAEは2022年、COMESAの輸出先として中国とイタリアに次ぐ第3位となった（輸出額は176億ドル）⁷。図表2の通り、最も大きな額を占めるのは宝石や金属である

⁵ アフリカではすでにケニア、モーリシャス、コンゴ共和国との間でCEPAを締結済み。

⁶ COMESA加盟国は以下21カ国：ブルンジ、コモロ、コンゴ民主共和国、ジブチ、エジプト、エリトリア、エスワティニ、エチオピア、ケニア、リビア、マダガスカル、マラウイ、モーリシャス、ルワンダ、セーシェル、ソマリア、スーダン、チュニジア、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ。

⁷ 詳しくは、以下を参照のこと。

<https://investopia.ae/wp-content/uploads/2024/09/2024.06.20-UAE-Africa-Trade.pptx.pdf>

が、その次に来るのが食料である。食料の9割以上を輸入に依存するUAEにとり⁸、供給源の多角化は喫緊の課題だ。UAEがアフリカ各国の主要な港湾の管理・運営権を相次いで押さえている今、UAEの安定的な食料確保においてもアフリカは重要な役割を果たし得る⁹。

2. UAE政府のアフリカ港湾戦略と港湾デベロッパーの役割

本節では、UAEによるアフリカ港湾分野への関与を企業別に見ていきたい。

2-1. DPワールド

ドバイを拠点とするDPワールドは、世界のコンテナターミナル会社の中では、5番目の規模6900万TEU¹⁰の取り扱いを占めるUAE随一の港湾運営会社である。アフリカでは東西南北にわたる各国の港湾の利権を有する（図表3）。中でも、東アフリカ地域の大国エチオピアとの物流ルートとなるソマリランドのベルベラ港および、アフリカ南部の資源国・農業国からの金・宝石・野菜等の輸入を行うことを目的に、タンザニアのダルエスサラーム港のターミナルの運営と近代化のための30年間のコンセッション契約を同国港湾庁と締結した。エチオピアとタンザニアのコーヒー輸出総量はそれぞれ29.8万トン・8.4万トンと多く、UAEは同国で消費需要が伸びているコーヒー豆の輸入を拡大したい狙いがある。さらに、2024年4月にエチオピア投資庁がコーヒーの輸出・卸業務の規制を緩和し、外資企業へ市場を開放したことが投資を後押しする。

また、港湾という「点」の権益を押さえるだけでなく、UAEのアブダビ開発基金（ADFD）がインフラ開発を行った、タンザニア西方のウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国まで通じる604キロの道路を活用し、内陸国とのサプライチェーンも強化することを狙っているのがDPワールドのアフリカ港湾戦略の特徴である¹¹。同様に、米政府等が主導する「ロビト回廊（アンゴラ・コンゴ民主共和国・ザンビアの鉱山を接続する鉄道の改修・建設）」の完工（2029年予定）を想定し、大西洋に面するアンゴラのルアンダ港のコンセッション契約を締結している。

2-2. ADポーツグループ

UAEの首都アブダビを拠点とするADポーツグループも、中東大手の港湾運営会社の一つだ。ボーキサイトの輸出拠点であるギニアのカムサル港への関与は古く、UAEのアルミニウム最大手エミレーツ・グローバル・アルミニウム（EGA）が建設したコンテナターミナル（2016年運用開始）の管理・運営を通じ、UAEの

⁸ 詳しくは、以下を参照のこと。

https://usuaebusiness.org/wp-content/uploads/2024/11/SectorUpdate_FoodReport_Web.pdf

⁹ UAEは2018年、国家食糧安全保障戦略「National Food Security Strategy 2051」を発表しており、2051年までに「世界の食料安全保障指数」において自国のランキングを23位から1位に引き上げることを目指している。詳しくは、以下を参照のこと。

<https://u.ae/en/about-the-uae/strategies-initiatives-and-awards/strategies-plans-and-visions/environment-and-energy/national-food-security-strategy-2051>

¹⁰ TEUとはTwenty-foot Equivalent Unitsの略で、20フィートで換算したコンテナ本数を表す単位である。

¹¹ 内陸国ウガンダとUAE政府は、2018年にウガンダ国内の農業自由区（2,500ha規模の農地）の設置で政府間合意しており、エンテベ空港近傍への冷却倉庫の設置やエミレーツ航空の貨物便7機をウガンダ政府に提供している。

鉱物資源確保に貢献している。エジプトではクルーズターミナルを含め、紅海および地中海沿岸6カ所の港湾の他、2022年以降はスーダンのアブ・アママ港、2023年よりコンゴ共和国のポワント・ノワール港の管理・運営も請け負う（図表3）。直近では2024年4月、アンゴラのルアンダ港の運営とアップグレードのための20年間のコンセッション契約を同国政府と締結し、最大3億7900万ドルを投資する計画だ。

ADポーツグループのビジネス戦略は港湾運営にとどまらない。2022年にはアフリカ金融公社（AFC）¹²との間で、アフリカ全土の港湾、倉庫、物流インフラの資金調達、開発、投資に関する覚書を締結し、地域のインフラギャップの解消と貿易効率の向上を目指すという。ADポーツグループは、アフリカの経済発展への貢献を通して、地域でのUAEの影響力を高め、アフリカとの貿易拡大はもちろん、アフリカへのゲートウェイとしてUAEを世界的な貿易ハブに押し上げる役割を担っているといえる。

図表3 UAEが利権を有するアフリカの港湾



出所：Mapboxから三井物産戦略研究所作成

3. エチオピア、タンザニアの事例

上述の通り、UAEのアフリカからの輸入は増加傾向にあり、南アフリカ、マリ、ジンバブエ、ギニア等が輸入額上位に入ってくる。しかし、伸びてみるとエチオピアが突出しており、2021年の輸入額は前年の実に約7倍に急拡大した（図表5）。また、農産物・加工食品で見れば、ここ10年の間にタンザニアからの輸

¹² AFCは、アフリカ域内で民間セクターが主導するインフラ投資を推進する機関として2007年に設立された。43カ国が加盟。

入は約2倍に増えている（図表8）。本節では、これら東アフリカ2カ国を事例として、UAEの戦略を見ていきたい。

3-1. エチオピア

エチオピアの農業は国内総生産（GDP）比率の4割を占め、輸出品の8割を占める基幹産業である。同国の輸出入は約9割を北に接するジブチのドラレ港に依存しているが、今後はソマリランドのベルベラ港の活用が進む見込みである¹³。アデン湾に面するベルベラ港を含む沿岸20キロを商業港湾施設と軍事基地としてエチオピアが50年間の貸与を受けることとソマリランドを国家承認することが引き換えになっており、ベルベラ港の利用が増加する見通しだ¹⁴。エチオピア政府は、農業生産拡大に向けて、米・小麦・パームオイル等の生産拡大、および、土壌劣化を背景に再生可能農業の導入を政府方針に掲げている。UAEのエリート・アグロ（Elite Agro）社は小麦工場に2億円を投資するなど、同方針を後押しする姿勢である。

また、エチオピアでは、約240キロの道路の改修やオフィス・住居ビルの建築を行う「回廊開発プロジェクト」が特筆される事業で、UAEは、首都アディスアベバの幹線道路の整備および宮殿¹⁵の建設を担っているとされる（図表4）。インフラ開発資金の提供と引き換えに、ベルベラ港の利用拡大を引き出し、エチオピアの農業生産性のポテンシャルを取り込みたい狙いである（図表5、6）。

図表4 UAE政府がインフラ開発の資金提供をしているとされるエチオピア国内の様子



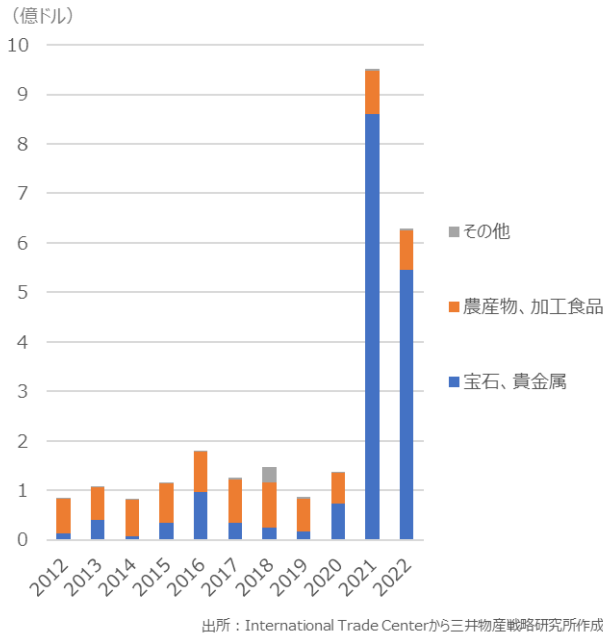
出所：筆者撮影

¹³ ソマリランドは、国連加盟国から国家承認されておらず、国際法上は、ソマリアの一部として扱われてきた。しかし、2024年1月に、エチオピア政府がソマリランドを国家承認すると発表した。2024年12月時点、正式承認は行われていない。

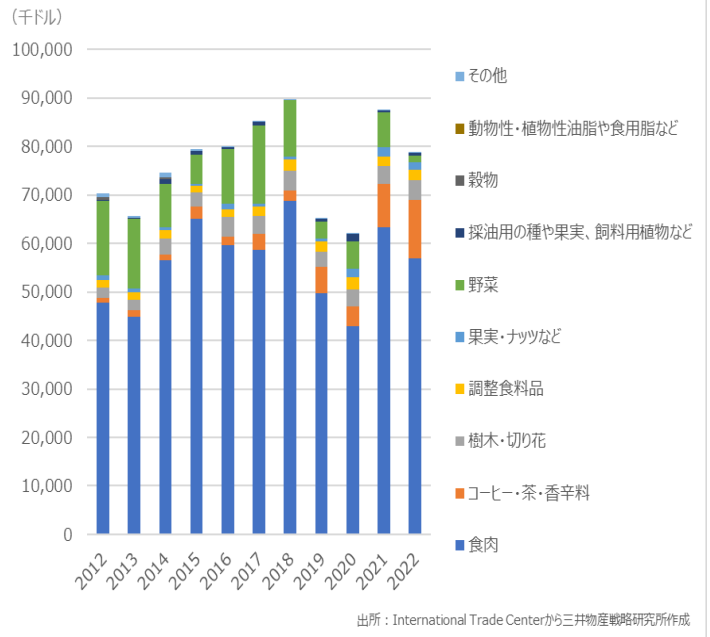
¹⁴ 同港は、ジブチのドラレ港の取り扱い貨物量の約3分の1となる50万TEUのキャパシティを目指している。

¹⁵ 公式の発表はないものの、エチオピア当地では、UAEがアビィ首相個人邸宅の宮殿を建設中との声が聞かれた。

図表5 UAEのエチオピアからの輸入額の推移



図表6 UAEのエチオピアからの農産物・加工食品の輸入額の推移

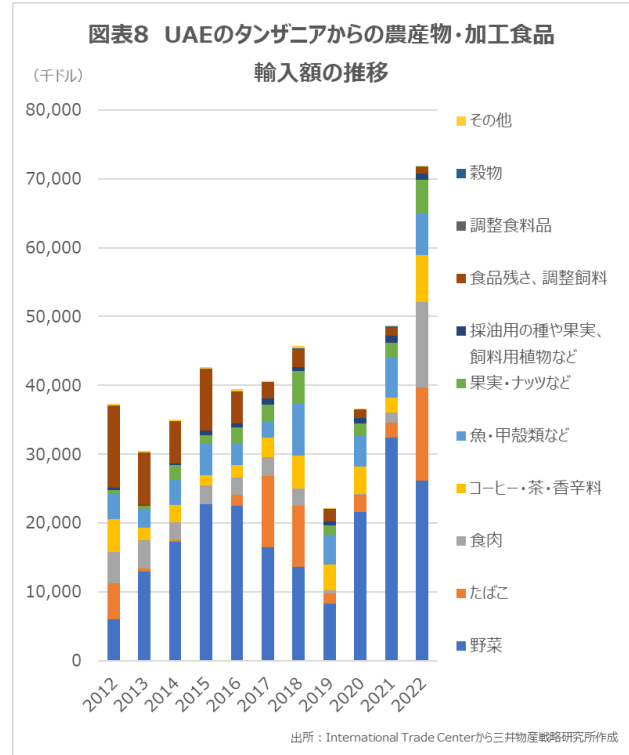
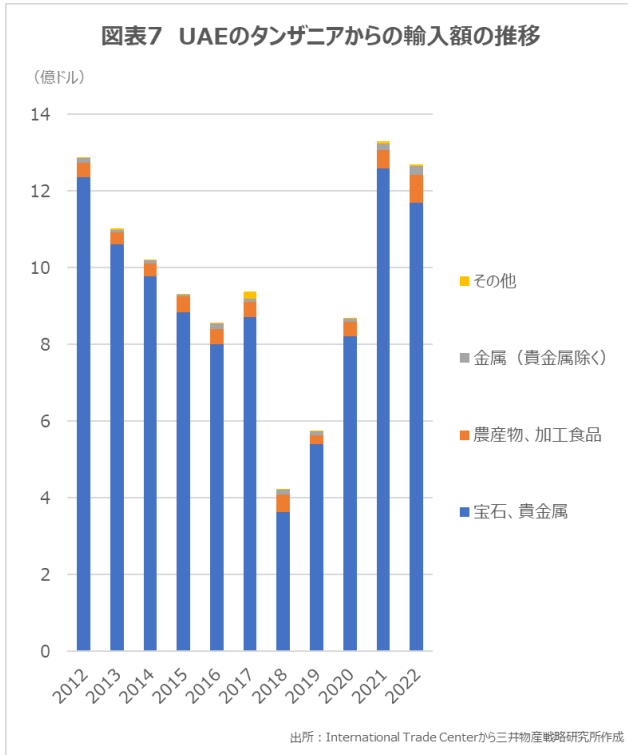


3-2. タンザニア

UAEとタンザニアは2022年に合意書を締結し、UAE関連企業等による4年間で累計74億ドルの投資を計画 중이다。例えば、UAEのGSGエナジー社は、交通・鉱業・製造・石油製品の輸送に関する5億ドルの投資を表明している。また、アラブ系スルタンが東アフリカ貿易の拠点としてきた島しょザンジバル¹⁶とUAEとの関係は深い。アブダビ投資庁は2022年、ザンジバルの公共住宅の建設や電力事業に4.2億ドルの融資を行った他、新規に建設が予定されているマンガプワニ港の管理・運営もDPワールドが担う可能性がある。

ザンジバルを含むタンザニアからUAEへの輸出額は12.7億ドル（2022年）で、金・ダイヤモンド等が11.7億ドルを占めるが、それらを除くと、中東の食の嗜好に合致する羊やヤギなどの畜産物と野菜が主要な輸出品目である（図表7、8）。ダルエスサラーム港は約32万TEUの貨物取扱量があり、今後30年間のDPワールド社とのコンセッション契約期間中に、約10億ドル規模の港湾投資が行われることで、貨物取扱量が増加する見込みである。

¹⁶ タンザニアは、1964年に島しょ部分のザンジバルと本土側のタンガニーカ共和国が合邦し、連合共和国として成立した。ザンジバルの全住民の97%がイスラム教徒である。



4. 結語

本論では、UAEが、アフリカ諸国の港湾の管理・運営を通じて、自国の物流網の強化に努めていることを明らかにした。UAEとアフリカ諸国の協力については、基本的に政府間（GtoG）協議に基づいて進んでおり、その詳細は必ずしも表に出てこない。そのため、定量的な分析に限界はあるものの、エチオピアでの事例が示すように、UAEの存在感が目に見えて増大していることも確かである。UAEのアフリカへの関与は、インフラ、食料、エネルギー、鉱業、不動産、通信、教育など多岐にわたる¹⁷。両者間の物流網の強化が進む中、UAE政府による現地企業に対する対アフリカ投資支援体制も強化されており¹⁸、UAE・アフリカ関係は今後ますます拡大していくことが予想される。

¹⁷ 世界経済フォーラムの2024年4月28日付記事によると、過去10年間のUAEからアフリカへの直接投資額は約600億ドルであり、中国、EU、米国に次ぐ規模である。

<https://www.weforum.org/stories/2024/04/africa-gcc-gulf-economy-partnership-emerging/>

¹⁸ UAE政府による現地企業に対する対アフリカ投資支援イニシアチブ「UAE - Africa Gateway」については、以下を参照のこと。

<https://www.moec.gov.ae/en/-/ministry-of-economy-launches-uae-africa-gateway-to-enhance-economic-and-investment-partnerships-with-african-markets-%C2%A0>

当レポートに掲載されているあらゆる内容は無断転載・複製を禁じます。当レポートは信頼できるとされる情報ソースから入手した情報・データに基づき作成していますが、当社はその正確性、完全性、信頼性等を保証するものではありません。当レポートは執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社および三井物産グループの統一的な見解を示すものではありません。また、当レポートのご利用により、直接的あるいは間接的な不利益・損害が発生したとしても、当社および三井物産グループは一切責任を負いません。レポートに掲載された内容は予告なしに変更することがあります。